

かさぐるま

ひと、豊かなハーモニー

平成15年7月1日



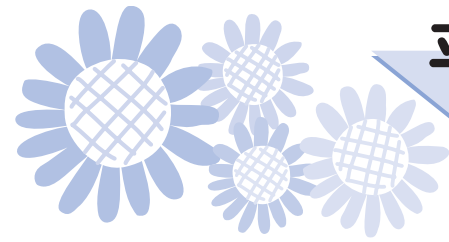
絵：齋藤 勝利さん

- 平成15年度新たなスタート
— 山形県社会福祉事業団事業計画 —
平成15年度役員紹介
- 新規事業スタート
作品展示会のお知らせ
セミナー等の開催情報
- 特別寄稿
情報板

No. 71

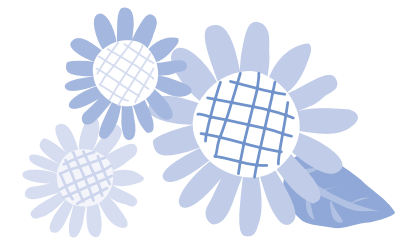
社会福祉法人
山形県社会福祉事業団

<http://www8.ocn.ne.jp/~yamafuku/>
メール: ysj@cocoa.ocn.ne.jp



平成15年度 新たなスタート

山形県社会福祉事業団事業計画



基本方針

- 1 自律的・主体的経営の推進
- 2 利用者主体の施設運営と利用者の権利擁護及び質の高いサービスの提供
- 3 地域・圏域におけるネットワーク機能の推進と情報の積極的提供
- 4 専門的・先駆的・広域的事業の推進による県民福祉の向上
- 5 職員の資質向上と職場の活性化

重点事業

- 1 山形県社会福祉事業団中期経営計画に基づく5カ年実行計画の策定
- 2 特別養護老人ホームの経営基盤の自主的な強化
- 3 支援費制度下での適切なサービス提供と機能の拡充
- 4 デイサービス事業所等居宅支援事業の円滑な運営
- 5 施設利用者の地域生活移行への積極的な取り組み
- 6 在宅障がい者の相談支援体制の充実

事業団を取りまく状況と事業計画

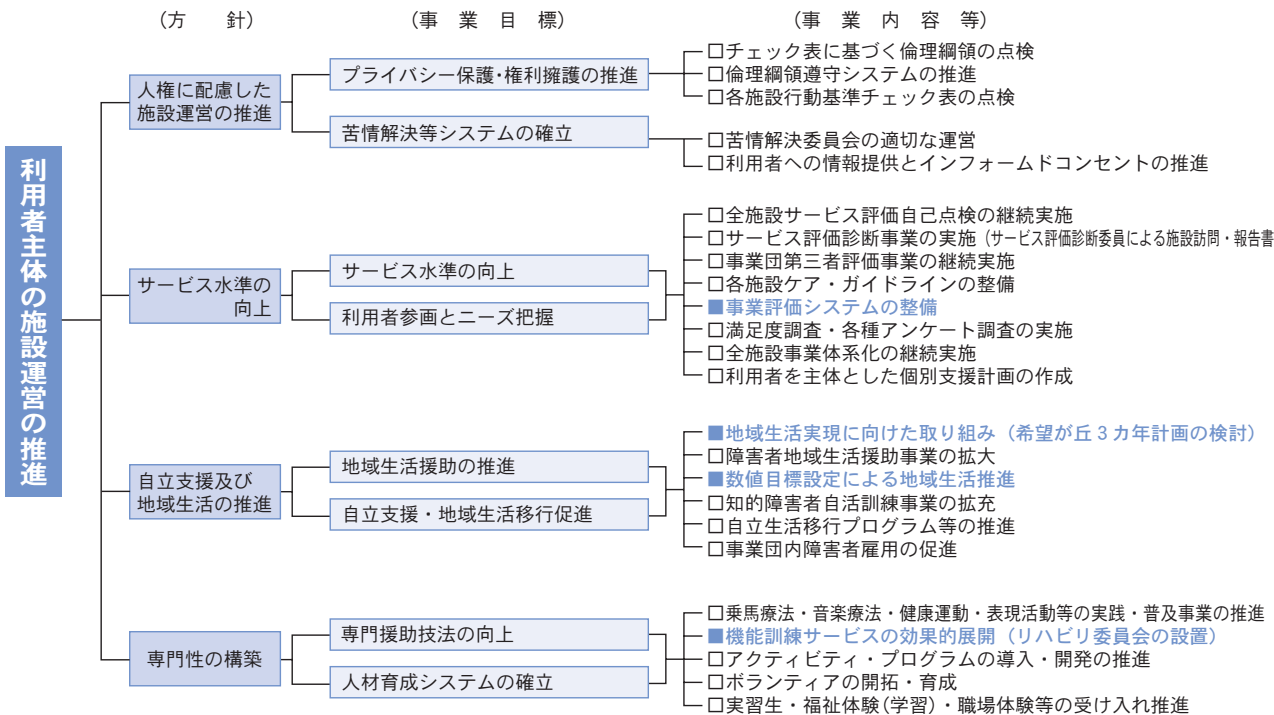
事業団の経営環境は、大きく変化しています。例えば障害者福祉分野では、4月より従来の措置制度から契約による利用制度である支援費制度が導入され、4つの特別養護老人ホームも県からの移譲を受け、自主経営になりました。

国の社会福祉施策もその基本フレームが変化し「新障害者基本計画」（平成14年12月24日閣議決定）や「重点施策実施5カ年計画」（平成14年12月24日障害者施策推進本部決定）には、施設体系の見直しや施設等から地域社会への移行の促進が示され、これからの入所施設は、地域の実情を踏まえて、真に必要なものに限定する、あるいは生活の質の向上を図るため施設の一層の小規模化・個室化を図っていくという方向性が打ち出されています。また、経済財政分野における三位一体の改革（税源の移譲・地方交付税の見直し・補助金の削減）や福祉分野における規制改革の推進により、老人福祉分野を含め、まさに民間を含めた多様な経営主体による福祉サービス提供の時代が到来しています。

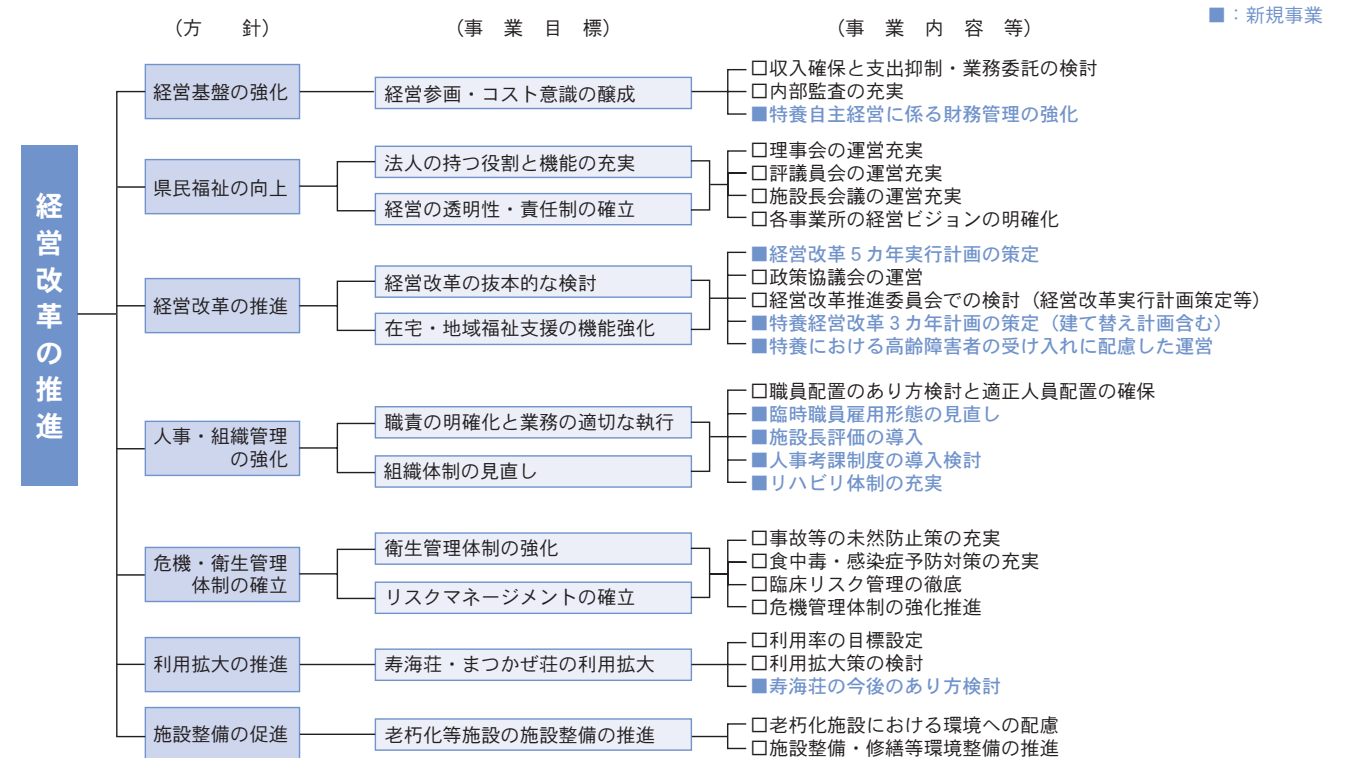
また、山形県では平成24年までの10年間における障害者施策の基本方向・推進方策や、前期5年間のサービスの整備目標を示した「第3次山形県障害者計画」（新輝きの福祉プラン）が策定されました。その意味で、今後数年間は昭和40年に事業団が設立されて以来最も大きな転換期を迎えているといっても過言ではありません。

このような状況を背景として、事業団では5つの基本方針と6つの重点事業を設定しました。中期経営計画に基づく5カ年実行計画の策定という項目が代表して示すように自律的・主体的経営の推進、在宅・地域福祉支援のための機能の確保と充実、多様化・専門化する利用者や地域のニーズへの積極的な対応、各種施策や制度との連動、圏域や地域での福祉ニーズに即応できる組織体を目指し、今、生まれ変わろうとしています。

Ⅱ 利用者主体の施設運営の推進 ～利用者が主人公の施設づくりをめざして～



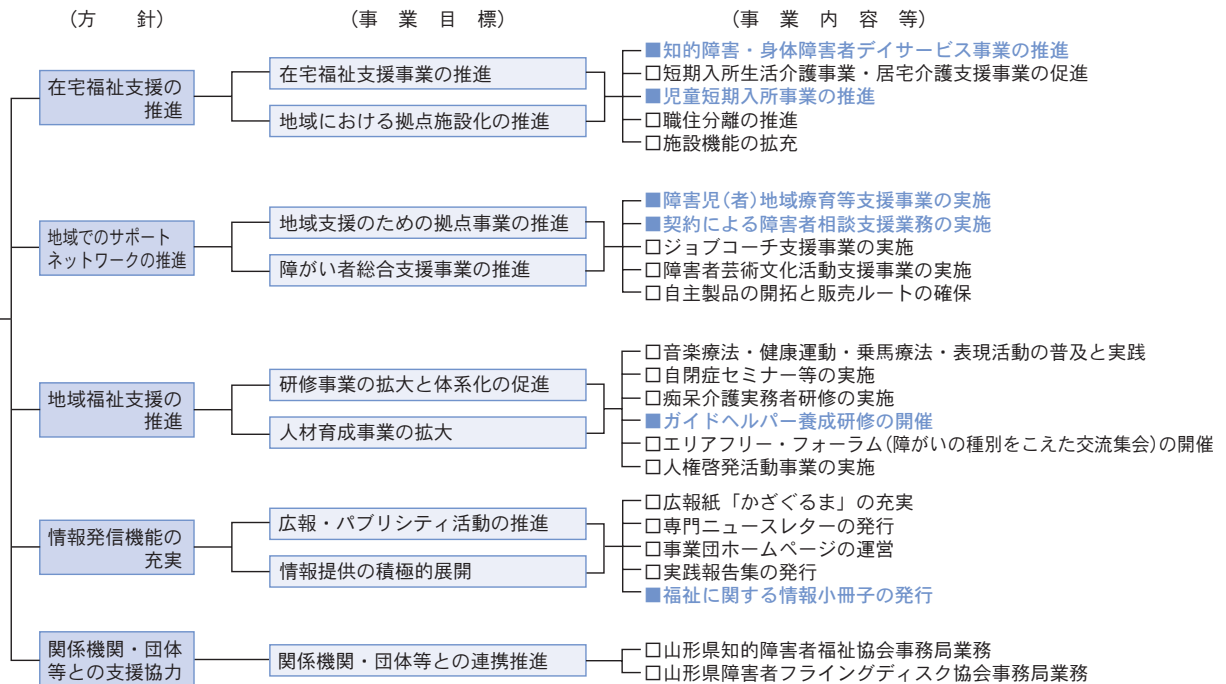
Ⅰ 経営改革の推進 ～法人の自律的・主体的経営をめざして～



4月から特別養護老人ホーム 松濤荘、寿泉荘、福寿荘、大寿荘は事業団自主経営となりました。

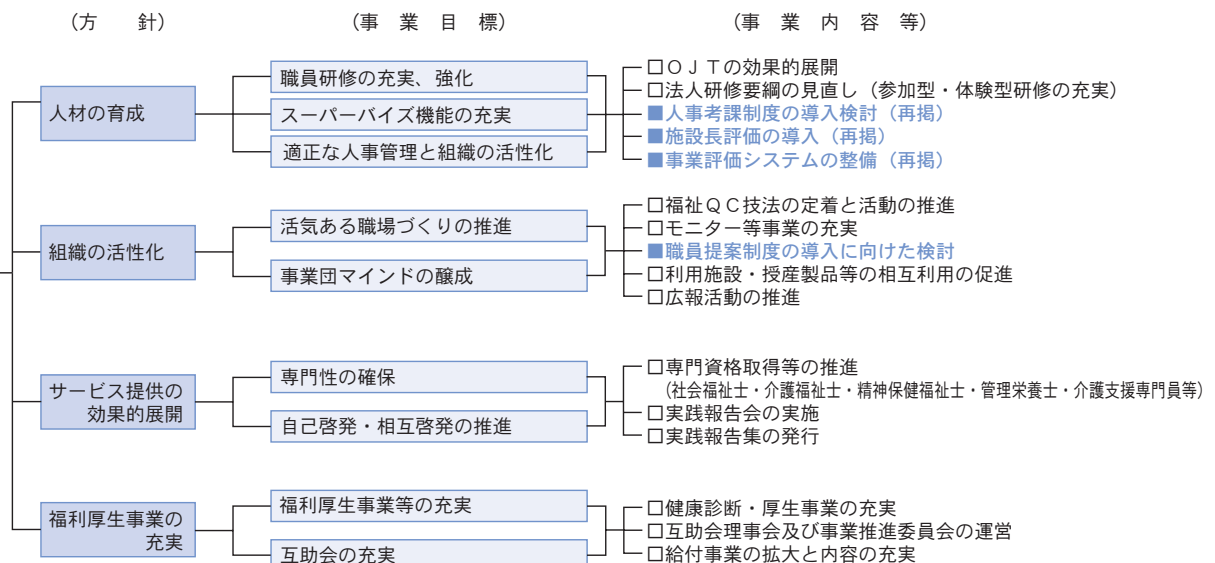
Ⅲ 在宅・地域福祉の推進 ～地域における拠点施設をめざして～

在宅・地域福祉の推進



Ⅳ 人と職場の活性化 ～マンパワーの育成と職場の活性化をめざして～

人と職場の活性化



平成14年度 事業報告

1. 施設の概況

- (1) 特別養護老人ホーム、救護施設、身体障害者更生援護施設及び知的障害者援護施設の12施設の管理運営にあたり、その入所定員数は1,340名、通所定数は44名である。
- (2) 次表で見ると12施設において、14年度新規入所者は入所施設114名、通所施設4名であり、退所者は入所施設139名、通所施設1名となっている。その結果、年度末在籍者は、入所施設1,328名、通所施設41名である。
- (3) 寿海荘及び希望が丘まつかぜ荘の利用定員は106名であり、今年度宿泊者は13,525名、休憩者は4,529名である。
- (4) 就職及び家庭復帰のため退所した方は、5施設において20名、当法人設立以来の累計は、929名となっている。
- (5) 知的障害者地域生活援助事業所及び精神障害者地域生活援助事業所は、計16箇所では利用者は72名である。
- また、特別養護老人ホームの短期入所事業の利用者は5,162名、居宅介護支援事業所の給付管理ケースは、1,644件であり大幅に増加している。障害者施設における短期入所事業は1,509人で前年度より減となっている。
- (6) 平成14年度において、法人運営に要した経費の支出総額は、7,521,565,029円で、このうち人件費は、5,095,248,938円で67.7%である。また、県費補助金及び委託料は1,905,065,025円で25.3%にあたる。

2. 施設整備の状況

平成14年度において実施された施設整備は、次のとおりである。

- | | | | |
|----------|---------------|----------------------|-----------|
| (1) 工事関係 | カ 希望が丘 | * 仮設棟解体工事 | |
| ア 松濤荘 | * 設備改修工事 | * フェンス等設置工事 | |
| | * 緊急避難場所整備工事 | * あさひ寮及び作業棟屋根改修工事 | |
| イ 福寿荘 | * 床改修工事 | * サービス棟冷凍庫電気工事 | |
| | * 特浴室タイル張工事 | * 食器消毒保管庫設置に伴う電源設備工事 | |
| | * 電灯盤改修工事 | | |
| | * 屋根改修工事 | | |
| ウ 寿泉荘 | * グリストラップ改修工事 | (2) 備品関係 | |
| エ 梓園 | * 給湯配管等改修工事 | ア 福寿荘 | * 特殊浴槽 |
| オ 鶴峰園 | * スロープ等改修工事 | イ 大寿荘 | * 特殊浴槽 |
| | | ウ 慈丘園 | * 乾燥機 |
| | | エ 鶴峰園 | * 回転釜 |
| | | オ 希望が丘 | * 冷凍庫 |
| | | | * 食器消毒保管庫 |
| | | | * 自動現像機 |

事業報告資料

入所者及び利用者の状況

(単位：人)

番号	事業所		入所定員	平成14年度			開設以来		専任常勤職員定数	
	種別	施設名		入所者	退所者	年度末現員	入所者	退所者		
1	特別養護老人ホーム	松 濤 荘	100	22	22	99	862	763	33	
2	特別養護老人ホーム	寿 泉 荘	100	9	12	97	668	571	33	
3	特別養護老人ホーム	福 寿 荘	100	19	21	97	658	561	34	
4	特別養護老人ホーム	大 寿 荘	100	21	17	100	685	585	34	
5	救 護 施 設	みやま荘	100	3	5	98	693	595	29	
6	救 護 施 設	泉 荘	80	3	3	80	270	190	23	
7	重度身体障害者更生援護施設	梓 園	通所	5	3	1	2	3	1	
				70	4	4	69	285	216	
8	重度身体障害者授産施設	鶴 峰 園	通所	9	0	0	9	21	12	
				50	1	1	50	128	78	
9	身体障害者通所授産施設	ワークショップ 明 星 園	通所	30	1	0	(1) 30	(1) 40	10	8
10	知的障害者更生施設	吹 浦 荘	70	4	4	70	437	367	25	
11	知的障害者更生施設	慈 丘 園	70	0	1	69	144	75	31	
12	知的障害者更生施設 及び授産施設	希 望 が 丘		500	28	49	499	1,035	536	199
			通所	44	4	1	41	64	23	
小 計 (1~12)			通所	1,340	114	139	1,328	5,865	4,537	497

※ワークショップ明星園の()書きは、身体障害者療護施設入所者の身体障害者授産施設通所事業分で別掲である。

(単位：人)

番号	事業所		利用定員	平成14年度		開設以降利用者		専任常勤職員定数
	種別	施設名		宿 泊	休 憩	宿 泊	休 憩	
13	福祉休養ホーム	寿 海 荘	56	11,652	2,339	303,493	124,321	12
14	在宅心身障害児者保養訓練センター・職員厚生会館	希 望 が 丘 まつかぜ荘	50	1,873	2,190	74,082	29,893	-
小 計 (13~14)			106	13,525	4,529	377,575	154,214	12

番号	事業所		支援対象障害者の把握	支援実施対象者人数	専任常勤職員定数
	種別	施設名			
15	障害者就業・生活支援センター	置賜障害者就業・生活支援センター	(1) 新規相談 59名 (知的38名・身体8名・精神11名・その他2名) (2) 継続相談・支援 93名	(1) 就業支援 ①基礎訓練 7名 ②職場実習 4名 ③定着支援 18名 (2) 生活支援事業登録者 16名 (3) ケアマネ推進事業 11名	4人

番号	事業所		職業評価・職業リハ計画策定依頼件数	生活相談事業件数	専任常勤職員定数
	種別	施設名			
16	精神障害者地域生活支援センター	西村山精神障害者地域生活支援センター	生活及び就労に関する支援延べ利用者数 4,795名	電話 595件 面接 342件 訪問 197件	3人

番号	事業所		居宅管理給付ケース件数(年間延べ件数)	契約延べ人数	専任常勤職員定数
	種別	施設名			
17	居宅介護支援事業所	松濤荘居宅介護支援事業所	585件	100名	1人
18	居宅介護支援事業所	寿泉荘居宅介護支援事業所	429件	48名	1人
19	居宅介護支援事業所	福寿荘居宅介護支援事業所	416件	48名	1人
20	居宅介護支援事業所	大寿荘居宅介護支援事業所	215件	26名	1人
21	事 務 局				9人
総 計 (1~21)			-	-	529人

平成14年度 決算

1. 財産目録

平成15年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
1. 流動資産	円	1. 流動負債	円
現金	20,000	短期運営資金借入金	229,180,000
預金	200,663,840	未払金	459,681,853
未収金	356,112,351	預り金	94,488,379
貯蔵品	104,962	流動負債合計	783,350,232
短期貸付金	229,180,000		
その他の流動資産	6,299,391		
流動資産合計	792,380,544		
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	23,590,000		
土地	7,998,352		
基本財産特定預金	10,000,000		
減価償却累計額 △	19,918,216		
基本財産合計	21,670,136		
(2) その他の固定資産			
建物	4,644,500		
構築物	10,658,434		
機械及び装置	1,035,850		
車輛運搬具	29,167,563		
器具及び備品	524,763,446		
減価償却累計額 △	336,269,984		
その他の固定資産	17,171,180		
その他の固定資産合計	251,170,989	2. 固定負債	0
固定資産合計	272,841,125	負債合計	783,350,232
資 産 合 計	1,065,221,669	差引純資産	281,871,437

2. 貸借対照表

平成15年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘 定 科 目	決 算 額	勘 定 科 目	当 年 度 末
流動資産	792,380,544 円	流動負債	783,350,232 円
現金	20,000	短期運営資金借入金	229,180,000
預金	200,663,840	未払金	459,681,853
未収金	356,112,351	預り金	94,488,379
貯蔵品	104,962	負債の部合計	783,350,232
短期貸付金	229,180,000	その他の積立金	59,921
その他の流動資産	6,299,391	その他の積立金	59,921
固定資産	272,841,125	次期繰越活動収支差額	281,811,516
基本財産	21,670,136	次期繰越活動収支差額	281,811,516
建物	23,590,000	(うち当期活動収支差額)	51,203,040
土地	7,998,352		
基本財産特定預金	10,000,000		
減価償却累計額 △	19,918,216		
その他の固定資産	251,170,989		
建物	4,644,500		
構築物	10,658,434		
機械及び装置	1,035,850		
車輛運搬具	29,167,563		
器具及び備品	524,763,446		
減価償却累計額 △	336,269,984		
その他の固定資産	17,171,180		
資産の部合計	1,065,221,669	純資産の部合計	281,871,437
		負債及び純資産の部合計	1,065,221,669

3. 資金収支計算書

(自) 平成14年4月1日 (至) 平成15年3月31日

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
【経常活動による収支】		人件費支出	5,095,248,938 円
介護保険収入	1,674,754,424	事務費支出	842,399,811
利用料収入	120,193,499	事業費支出	1,093,599,277
措置費収入	2,660,743,250	年金共済契約金交付金積立金	96,698,901
負担金収入	48,348,064	年金共済契約給付金	32,922,271
交付金収入	32,922,271	授産事業費	60,378,520
授産事業収入	56,507,160	会計単位間繰入金支出	82,045,837
営業収入	70,687,285	経理区分間繰入金支出	136,088,000
医業収益	103,549,873	経常支出計(2)	7,439,381,555
経常経費補助金収入	2,191,331,732	経常活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	82,254,474
寄附金収入	2,249,000	【施設整備等による収支】	
雑収入	342,197,420	施設整備等収入計(4)	0
受取利息補助金収入	18,214	固定資産取得支出	82,183,474
会計単位間繰入金収入	82,045,837	施設整備等支出計(5)	82,183,474
経理区分間繰入金収入	136,088,000	施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 82,183,474
経常収入計(1)	7,521,636,029	【財務活動による収支】	
		財務収入計(7)	0
		財務支出計(8)	0
		財務活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	0
		予備費(10)	0
		当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	71,000
		【資金残高】	
		前期末支払資金残高(12)	0
		当期末支払資金残高(11) + (12)	71,000

4. 事業活動収支計算書

(自) 平成14年4月1日 (至) 平成15年3月31日

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
【事業活動収支の部】		【事業活動外収支の部】	
介護保険収入	1,674,754,424	受取利息配当金収入	18,214
利用料収入	120,193,499	会計単位間繰入金収入	82,045,837
措置費収入	2,660,743,250	経理区分間繰入金収入	136,088,000
負担金収入	48,348,064	事業活動外収入計(4)	218,152,051
交付金収入	32,922,271	会計区分間繰入金支出	82,045,837
授産事業収入	56,507,160	経理区分間繰入金支出	136,088,000
営業収入	70,687,285	事業活動外支出計(5)	218,133,837
医業収益	103,549,873	事業活動外収支差額(6) = (4) - (5)	18,214
経常経費補助金収入	2,191,331,732	経常収支差額(7) = (3) + (6)	51,759,122
寄附金収入	2,249,000	【特別収支の部】	
雑収入	342,197,420	特別収入計(8)	0
		固定資産売却損・処分損(売却原価)	556,082
		特別支出計(9)	556,082
事業活動収入計(1)	7,303,483,978	特別収支差額(10) = (8) - (9)	△ 556,082
人件費支出	5,095,248,938	当期活動収支差額(11) = (7) + (10)	51,203,040
事務費支出	842,399,811	【繰越活動収支差額の部】	
事業費支出	1,093,300,447	前期繰越活動収支差額(12)	230,608,476
年金共済契約金交付金積立金	96,698,901	当期末繰越活動収支差額(13) = (11) + (12)	281,811,516
年金共済契約給付金	32,922,271	基本金取崩額(14)	0
授産事業費	55,930,371	基本金組入額(15)	0
減価償却費	35,242,331	その他の積立金取崩額(16)	0
事業活動支出計(2)	7,251,743,070	その他の積立金積立額(17)	0
事業活動収支差額(3) = (1) - (2)	51,740,908	次期繰越活動収支差額(18)	
		= (13) + (14) - (15) + (16) - (17)	281,811,516

平成15年度 役員紹介

理事役員 (敬称略)

理事長	小野 勝	理事	松田 澄子	県立米沢女子短期大学教授
副理事長	佐藤 洋樹	理事	池田 静雄	希望が丘所長
専務理事	佐藤 紀一	監事	武田 浩一	社団法人山形県観光協会専務理事
理事	會田 鋭一郎	監事	奥山 隆夫	県出納局長
理事	浜田 敏			

評議員 (第1回評議員会の時に撮影しました) (敬称略)



後藤 泰洋
県健康福祉部障害福祉課長



色摩 武愛
県精神保健職親会連合会会長



菅原 功
学識経験者



情野 正弘
川西町社会福祉協議会常務理事



伊藤 繁
県障害者雇用促進協会事務局長



齋藤 緑
酒田市ボランティア連絡協議会事務局長



白石 恒雄
希望が丘父兄会連合会会長



前川 孝子
学識経験者



澤邊みさ子
東北公益文科大学講師



土田 ゆり
希望が丘「みのり会」庄内地区代表



大築 満夫
みやま荘長



堀川 秀雄
ワークショップ明星園利用者代表



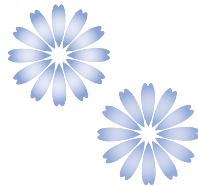
清川 恵美
慈丘園長



五十嵐敏之
福寿荘長

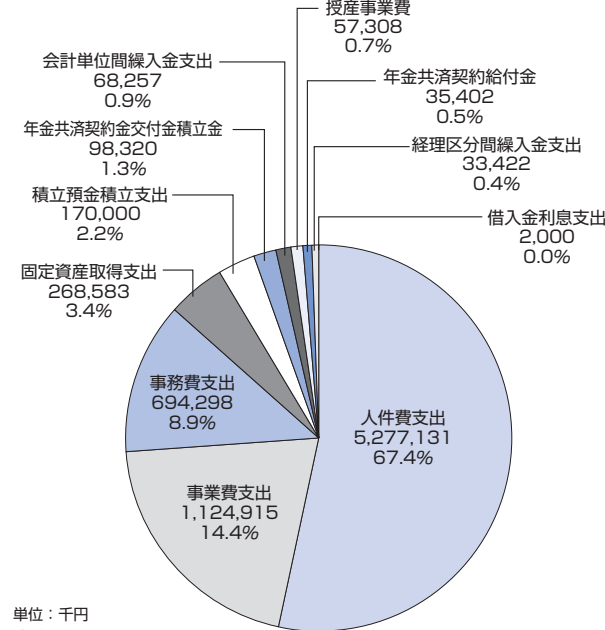


山口 康二
梓園長

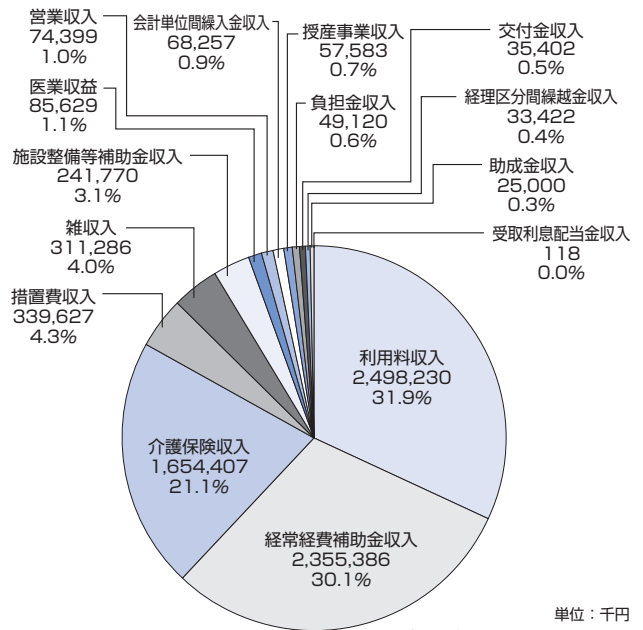


平成15年度当初予算総括

〔支出〕



〔収入〕



きめ細かなサービスがウリです!

ワークショップ明星園デイサービスセンター (身体障害者デイサービス事業)

平成15年4月1日より、ワークショップ明星園で、身体障害者デイサービス事業が始まりました。利用できる方は、山形市、天童市、中山町、山辺町在住の方で、18歳以上65歳未満の在宅の身体障害者の方です。定員は1日5名で、この2市2町以外の地域の方の利用についても相談に応じています。

5月末から毎週水曜日に利用されている方(Sさん・女性)は活動メニューの1つであるパソコン講習に参加していました。「パソコンは全くの初心者ですが、このサービスを利用し使い方を覚えて、メールで息子とやり取りをしたい。」と明るく話してくれました。また、Sさんは全盲のため音声ソフトを利用し、身体障害者福祉協会の方が講師として来所しており、明るく楽しいような雰囲気が感じられました。



パソコン講習の様子

現在の利用者はSさんだけですが、利用を希望されている方が何人かおり、見学に訪れています。職員の方の話では、まだ開所間もなく整備されていない部分が多く手探りの状態ですが、その分利用者の方の希望には細かい点から対応し、それをワークショップ明星園デイサービスの特長にしていきたいとのことでした。

(広報委員 白岩 守)

「児童短期入所サービス」スタート!

慈丘園 (知的障害者更生施設)

今年度より障害者施設で開始された「児童短期入所事業」の指定施設として、慈丘園でも4月からご利用いただいております。

4・5月は鶴岡市内の男子の方2名が休校日の日中に、延べ8日間利用しています。

1人の方は、音楽を聞いて体育館で遊ぶことを好まれるため、終日音楽をかけ、自由に遊べるようにしております。

もう1人の方は「新しい場面が苦手なので慣れて欲しい」「いろいろな体験をして欲しい」というご両親の希望がありましたので、職員が個別に対応しております。



明るく、親しみやすい部屋です

まだ宿泊のご利用はありませんが、快適に過ごせるよう空調設備等も整備しました。指定施設として、ご本人・ご家族の思いを充分に受けとめ、気軽にご利用いただき、楽しい生活ができるようサービス提供を行っていきたく思います。

*慈丘園の他に吹浦荘・希望が丘あさひ寮・こだま寮・まつのみ寮でサービス提供を行っております。

(広報委員 菅原けい子)

セミナー等の開催情報 (7月現在)

事業名	開催期日	場所	問い合わせ先
第2回地域福祉支援セミナー in庄内	9月15日(月)	東北公益文科大学	慈丘園 (知的障害者更生施設) TEL0235-75-2862
第3回自閉症療育セミナー「すずらん塾」	9月22日(月)~23日(火)	山形国際交流プラザ(ビックウイング)	希望が丘しらさぎ寮 (知的障害者更生施設) TEL0238-46-3101
第4回地域生活支援セミナー inあきたま	9月28日(日)	タスパークホテル (長井市)	置賜障害者就業・生活支援センター (サポートセンターあきたま) TEL0238-88-5357
第2回泉荘福祉セミナー	10月19日(日)	泉荘体育館	泉荘 (救護施設) TEL0238-88-9211
第5回梓園福祉セミナー	未定	梓園	梓園 (身体障害者更生施設) TEL0238-22-0398
ミュージック・ケア第7回全国セミナー	8月23日(土)~25日(月)	天童ホテル (天童市)	
ミュージック・ケア研修(総合研修初級コース)	9月27日(土)~10月25日(土) 毎週土曜日・全5回	希望が丘体育館 (川西町)	希望が丘地域福祉支援センター TEL0238-42-5158
第5回エリアフリー・フォーラム	12月6日(土)	ウエルサンピア山形 (山形市)	
健康運動セミナー	未定	未定	

★Topics - 話題 -

新規事業が スタートしました!

新しい感動と満面の笑顔

希望が丘まつかぜ荘デイサービスセンター (知的障害者デイサービス事業)

希望が丘の敷地で最初に出合う緑に囲まれた建物がデイサービスを行っている「まつかぜ荘」です。障害者在宅支援事業として近隣市町の在宅の方を対象に、今年4月より置賜では初、県内でも2番目となるデイサービスがスタートしました。その他にショートステイ、ホームヘルプサービス等がありますが、近隣にサービス提供の場がなく施設か在宅かの選択を余儀無くされている現状の中で、「まつかぜ荘」に拠点が出来た事は、家にこもりがちだった方々の地域に出る機会が増え、大変意義のあることと言えます。



のりごこちは最高!

入浴、食事、レクリエーション、健康運動、音楽療法、乗馬療法、リハビリなど、多彩なサービスメニューがそろっており専門的な技術や資格をもつ職員が対応し、個別のニーズに応じた細やかなプログラム作成が可能となっています。

所長に話を伺ったところ中で「送迎の効率に課題がありますが、その分サービスの充実を図り、当りにサービスが受けられるように理解と認識を深めるため、情報提供と利用推進に力を注いでいます」とのことでした。

特に乗馬療養は「楽しい、良かった」と好評で満面の笑顔が返ってきます。ひとりでも多くの方に新しい感動を体験していただきたいと思ひます。

(広報委員 菅野 育子)



デイサービスオープンの日

お知らせ

各地で利用者の方の作品展覧会が開催されます。お近くにおでかけの際はぜひお立ち寄りください。

※齋藤勝利さん(表紙の絵)の作品が展示されます。

※秋葉庄平さん(希望が丘あさひ寮)・齋藤勝利さん(希望が丘しらさぎ寮)の絵が展示されます。

世田谷美術館企画展示2003

KALEIDOSCOPE <万華鏡>
- 6人の個性と表現 -

会期: 7月26日(土)~9月28日(日)
10:00~18:00 (入場は17:30まで)
休館日: 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日の火曜日)

場所: 東京都世田谷区砧公園1-2
世田谷美術館企画展示室A/B

入場料: 一般-600(480)円 大生-400(320)円
小学生-300(240)円

()内は20名以上の団体の場合の1人あたりの料金

主催: 世田谷美術館 協力: エイブル・アート・ジャパン

ここから風が...

秋葉庄平・齋藤勝利二人展

会期: 8月19日(火)~8月22日(金)
10:00~18:00
(展示最終日は15:00まで)

場所: 東北電力グリーンプラザ
プラザギャラリー-SOUTH (南)
仙台市青葉区一番町3-7-1
(電力ビル1F)

入場料: 無料

特別寄稿



山形県社会福祉事業団に求めること

山形県立保健福祉大学教授 福士 貴子 (十三、十四年度事業団理事)

めまぐるしく変わる社会情勢の中で社会福祉をめぐる状況も刻一刻と移り行く。戦後半世紀を過ぎた二〇〇〇年には大幅な見直しを内容とする「社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律」が成立し、順次施行されている。

このような状況下で今回のテーマの根底に据えなければならぬのは、県の事業団としての使命であろう。すなわち福祉施設拡充の時期が終わり、施設福祉中心から在宅福祉・地域福祉中心に移り、措置制度から利用制度化され、福祉の規制緩和等が進んできている中であって、民間の一福祉事業者とは異なる役割を担い、かつ県下の福祉分野における責任を持ち続けることに、その答えがあると思う。

うか。例えば県内の福祉ニーズを把握し、民間事業者の参入しにくい福祉領域や専門分野、地域へ貢献していくことである。二つめに種別の異なる施設および同種の施設を運営する利点を生かし、先駆的な試みを行い、援助方法を開発することである。同様に三つめには県内に点在する施設運営の経験からそれぞれの地域にあった援助方法を追求したり、各施設の独自性を高めたりすることなどである。もちろん二〇〇〇年の法律改正に伴い権利擁護、苦情解決、第三者評価など今日的課題への取組みやふさわしい人材養成を行うことも欠かせない。いずれにしても県内状況を視野にいれて利用者主体を基本とする福祉サービスの開発と提供が肝要である。

既存枠組みに拘られず、特性を活かして、自由かつ大胆に援助実践を創造し県民に役立てていくことを望みたい。

情報板

ご家族で、お友だちとご会合に、同級会に…… 湯のぬくもりと心温まるおもてなしでお待ちしております。

山形県福祉休養ホーム 湯つたりぬかい

あつみ温泉 寿海荘

〒999-7204 山形県西田川郡湯海町大字湯温泉字湯之里88-1 TEL 0235-43-4173 FAX 0235-43-4174

作家紹介 (表紙の作品)



齋藤 勝利さん (希望が丘しらすぎ寮：最上町出身)

各地で齋藤さんの作品が展示されます。詳しくは6Pをご覧ください。

表紙のデザイン：広報委員 佐々木 久美子



☆レキシコン

ユニバーサルデザイン(UD) [Universal Design]

ユニバーサルデザインとはユニバーサル(普遍的なすべての)という言葉が表しているように「すべての人のためのデザイン」という意味で、製品、建物、環境をあらゆる人が出来る限り利用可能にするためのデザインという概念です。

障害、年齢、性別、国籍等人が持つそれぞれの違いを越えてすべての人がくらしやすくなることを前提としたこの概念は、一九九〇年代に入ってからアメリカの建築家であり工業デザイナーであったロン・メイイス氏によって提唱されました。自ら車椅子利用者という立場から、バリアフリーデザインは障害者以外には魅力がなく、価格も高く、美しいデザインが少ないということを直視し、提案したと言われています。その後ロン・メイイス氏はノースカロライナ大学州立大学にユニバーサルデザインセンターを創設し、ユニバーサルデザインを製品のデザインに取り入れて行くときに、わかりやすく参考になる七つの原則を発表しました。

バリアフリーは「もともとあったバリア(障壁)を取り除くこと」を意味しますが、ユニバーサルデザインは最初からバリアが無いことを目指しており、はじめから様々な個人の特性を考慮してデザインすることで、どんな特性を持っていても柔軟に対応でき、使いやすいものであるといえます。

- 原則一：誰にでも公平に利用できること
- 原則二：使う上で自由度が高いこと
- 原則三：使い方が簡単ですぐわかること
- 原則四：必要な情報がすぐ理解できること
- 原則五：うっかりミスや危険につながらないデザインであること
- 原則六：無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
- 原則七：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

レキシコン (lexicon)：ギリシャ語・ラテン語・ヘブライ語の辞典。